

なぜ本庄でマーケットを始めたのか

鈴木 まず、マーケットを始めた理由をお伺いできますか？

山田 ほんじょうマルシェは、本庄NEXT商店街プロジェクト※の一事業として始まりました。当初はメンバーが少なくて、それが逆に原動力になり、メンバーで意地でも何かイベントをやりたいね、となりました。近隣でマルシェをやっているところが多い中で、市内では開催されていないかと？

なかったため、とりあえずやってみようという話になりました。

鈴木 お話の中で「意地でも」というのがおもしろいなと思って、すごくいい意味で本庄らしいなと思いました。

山田 やはり少数精鋭で気が持ちがピタッと合っていたので、「意地でも」っていう気持ちになったんだと思います。

鈴木 松浦さんはいかがですか？

松浦 商店会マーケットは、もともとは昭和32年11

※本庄NEXT商店街プロジェクト

平成30年度に始まった、商工団体・商店街・県・市等が連携し、地域に外部人材の発想や手法を取り入れ、自走できる商店街を目指すプロジェクト。

令和2年度から市の単独事業として継続しており、「ほんじょうマルシェ」「本庄まちゼミ」「本庄MEET & TALK」など、商店主や商工団体と協力しながら伴走支援を行っている。



という想いがあります。

また、市役所、公園等の公共空間を活用したマーケットについて、市の事業として実験的に開催することで、徐々に活用のハードルを下げていきたいという狙いもありました。

鈴木 出店者の方の声はいかがですか？

出牛 平日にこれだけ売り上げがあると助かるとか、まだ実施していない場所でも出店したい、との声もいただいているため、今後調整したいと思っています。

ていて、そうした関係性について教えていただけますか。

山田 仲間っていうのをあまり意識させてないかもしれませんね。よくある肩を組んで「俺たち仲間だよな」という感覚はないですよ。

出牛 ちょうどいい距離感ということですね。

山田 仲間意識を強く持ちすぎると、例えばイベントをやるときに「協力しなくちゃ」となって、楽しさが削がれてしまう、というのはあると思います。楽しさがないと続かないかと思えますよ。

鈴木 私がマーケットを好きな理由が、まさに山田さんがおっしゃっていたであろうどいい距離感にあります。例えば来場者を含めマーケット関係者が10人いたとして、その10人が同じ方向を向いている必要はなく、なんなら仲が悪い人たちがいてもいい。でも、ゆるやかにつながっている感覚が良いですね。マーケットに関わる方



主催者自身がマーケットという場を楽しむ

鈴木 ほんじょうマルシェ実行委員会って、チームって感じがして良いなと思っ

主催者の想いを通して、それぞれのマーケットの魅力を知らせてもらいたいです！

ここ数年で市内にマーケットがすごく増えてきてますよね！



鈴木さん

松浦さん

山田さん

出牛さん

月の「ほんじょう投げ市」が始まりました。それがずっと続いて、平成元年に「ほんじょう楽市」に名称が変わり、令和2年11月に開催された第30回から「商店会マーケット」に名前を変えた経緯があります。

他のマーケットと違うのは、商店街で店舗を営んでいる方のためのマーケットなので、外部から店舗を呼ばないですね。そこそ地産地消じゃないですが、地元の店舗にフィードバックしてもらうのが狙いなので、このスタンスは崩さずにやっていきたいと考えています。

鈴木 それは大事だと思います。外部から店舗を呼んで来てたくさん利益を得ているところもあるし、それがブランドになっているようなまちもあります。それもマーケットの一つの在り方ですが、松浦さんがおっしゃっているように地域にお金を残すためには、出店者を地域に限定することが効果的です。

松浦 外部の店舗ばかりだとそれぞれに目的があって、同じ空間を共有して同じものを作り上げているけど、仲間としての共通意識は必要ないと思うんです。

山田 そうなんですよ、それくらいの感じが好きなんです。だからこそ、じゃあ集まってやってみるかという話になるんだと思います。



松浦 みんなが楽しんで関わっているというのが大切ですよ。

鈴木 マーケットも含めて公共性の高いイベントは一般的な感覚でいうと、堅い人たちが運営しているとどうしても思われがちだと思うんです。でも実はそうではなくて、そこに関わる方たちは、このまちを楽しもうとしているだけだと思う

とイベントの売り上げが持っていかれてしまうと思うので、できればこういった地域のマーケットを年中行事ではなく生活行事にしていきたいという想いはあります。



鈴木 出牛さんはいかがですか？

出牛 マーケット（公共空間活用実証実験）は、コロナ禍の影響を受けた飲食店のために公共空間を活用することで支援を行えないかと考え、企画しました。令和4年5月以降、月1回開催しています。

商業者の支援を開催目的としているという点では、松浦さんの商店会マーケットに近いですね。マーケットに出店することで店舗のPRに使っていただきたい

山田 マーケットを続けていくためには、企画している自分たち自身がその場を楽しむことが大事ですよ。ね。

出牛 主催者側も、こんな雰囲気でもマーケットを開催しているの、来場者の方も気軽にマーケットに遊びに来て欲しいな、と思います。



↑山田さんと本庄七夕まつりの仲間たち